



国際Toxient対策機関

International Toxient Countermeasure Agency

文書番号: [3757-1641] / 発行日: [20XX年X月XX日]

【 TOKYO REPORT 】

【 T-81-3-006の毒液の飛散アクシデントに関する経緯報告 】

概要

×月×日、トーキョー支部でははじめての広報動画の撮影を行いました。その際、T-81-3-006が毒液をまき散らすというアクシデントが発生しました。職員の深刻な健康被害には繋がりませんでした。

発生経緯

直接的な原因はT-81-3-006が自らの触手の状態を顧みず、ジャグリングを行ったことです。ジャグリングの最中に、触手のコントロールを誤ったことが、毒液の飛散に繋がりました。

T-81-3-006はもとより気まぐれな行動の目立つ個体です。ジャグリングは職員や、他の毒物男子から求められたものではありませんでした。よって、T-81-3-006の予測のつかない突発的な行動が事故に繋がったと考えています。

室内にいた人間は毒に耐性のある赤宗支部長のみでした。そのため、症状は軽く、死亡事故や深刻な中毒には繋がりませんでした。

再発防止について

上記の通り、原因はT-81-3-006の行動です。

そのため、支部職員によるT-81-3-006の監視を強固なものとして、他者を害するような行動については、止めに入ること、および速やかにフォローすることがアクシデントの防止に繋がると考えました。

T-81-3-006について、支部内の自由行動を禁ずるという案も検討しましたが、当支部の方針に反するというので、今回は採用しない運びとなりました。

警戒監視を強めることと、管理者である支部長から強く言い聞かせることで、T-81-3-006の気まぐれな行動を抑制したいと考えています。

備考

X月X日の撮影中に発生した他アクシデントにつきましては、別途報告書をあげています。

[3757-1642]T-81-3-001の尻尾の切断アクシデントに関する経緯報告

同様に、T-81-3-006の毒性につきましても、赤宗支部長が以下にて報告しております

[5845-5647]T-81-3-006に関する定期報告

文書番号と発行日（文書作成日）を記載する

支部レポートのタイトルを記載する。

以下のいずれかを使用するが多い。

①T-X-X-XXX（任意のtoxient）に関する定期報告

②XX に関する経緯報告

③XX 年 XX 月 XX 日における戦闘（メタタイトル：）報告

④XX 年 XX 月 XX 日における実験報告

⑤XX 年 XX 月 XX 日～XX 日の活動報告

当てはまるものがない場合は任意のタイトルを使用しても構わない。

概要を記載する。

伝わりやすいよう事実のみを簡潔に記載すること。

本文を記載する。

本文の書き方は基本自由であるが、人に読まれることを意識して、適度に段落や項目をわけると推奨する。

報告を書く上での注意

テンプレートは必須のものではなく、基本的に報告者の裁量に委ねられていますが、他職員や一般市民も閲覧するものとして、節度ある文体や内容、誰が読んでも分かりやすく整理された文章を求めます。

慣れるまでは、テンプレートを使用しつつ、一般企業のビジネス文書などを参考に記述すると良いでしょう。

一般的には自身の感情や感想、意見と事実は分けて記述した方がよく、例えば、ある toxient についての定期報告であれば、

①toxient の言動（客観ベース）

②それを聞いて自身がどう感じたか、どう思考したか（主観ベース）

と段落分けすることをお勧めします。

また、内容により適した文体・表現方法も変わってくるということで、機関外部の一般市民にも向けたものであれば、あえて読みやすいように物語調にする、日記風にするなどの方式も考えられます。

ケースバイケースで柔軟に対応し、分かりやすい報告書を作ることも職員の大事な活動の一つです。

また、どのランク、どの役割の職員であっても、特別な事情が無い限り、最低限、週に 1 回は何らかの報告を求めます。
(ペナルティなどは特に設けていませんが、あまりにも報告がない場合は、指導が入る可能性があります)

例えば、toxient との些細な日常会話であっても、そこから何か生態解明に向けてのヒントが得られる場合もあるため、報告する内容が無いなどと自己判断せず、積極的に報告をあげるようにしてください。